



新世紀二〇〇二年 新たななる 前進への序章に

昨年は、希望の世紀として待ちこがれていた二十一世紀元年、千年に一度の大きな節目の年でしたが、激動の幕開けになりました。

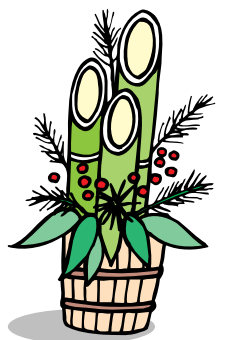
国内にあつては、小泉内閣の誕生による「骨太の改革」のスタート、低迷を続けてきた景気の一層の落ち込み、狂牛病や凶悪事件の発生など、騒然とした中に暮れました。

国外にあつては、アメリカでの空前絶後の同時多発テロとそれに関連を發したアフガニスタンでの戦争突入やパレスチナ情勢の悪化、加えてこれら国際情勢の不安に起因する世界経済の一斉減速など、混乱の極みのような年でした。

さて、今年はどうな年になるのでしょうか。

奇しくも時代が第三ミレニアムに入り、現在の社会現象を文明の輪廻と捉えらるゝとするならば、常態になるまでには相当の時間を費やすのではないかと思います。

明けましておめでとうございます



秋田市長 佐竹敬久

あるいは、今後はこれまで常識として抱いていたような常態には戻らず、別の姿を常態とするような時代になることも十分考えられます。

日本人は、こころばらく平穩に慣れてきましたが、人類社会は刻一刻と動いており、今日を昨日の延長と考えるのは、そもそも間違っていることに気づくべきです。

ソビエト連邦の解体、中国の自由経済社会への参入、発展途上国の追い上げなど、二十世紀末の国際秩序の大変動に伴い、加工貿易大国・経済大国として長らく君臨してきた日本も、その高い地位ゆえに大変動の波を真っ正面から受けるのは至極当然のことです。

今は、ちよつと日本が二十一世紀の国際社会を健全に生き抜いていくことができるか否かの資格試験を受けている最中と言つても過言ではないと思います。

今こそ、知恵を出し汗を惜しま